介護・医療・福祉

2024.3.26

田村まみ参議院議員、予算委員会で質疑！

医薬品安定供給と薬価改定について

武見厚生労働大臣（左）、田村まみ議員

https://youtu.be/UwX6kL6DKSg

田村まみ参議院議員、発言抜粋

医薬品安定供給と薬価改定について

まみに聴かせてキャンペーンに寄せられた声

「毎年薬価改定を廃止してほしい。薬価を下げすぎたので品薄が続いています。」

「薬価が安く不採算になった医薬品の供給が不安定になり、医薬品流通に携わる全ての労働者が疲弊しています。」

「毎年の薬価改定により、医療業界の衰退に繋がっています。」

「供給不安の解決をはじめ、医薬品産業で働く組合員が安心して働ける環境を整備してほしい。」

●市場価格を反映した薬価改定という財務省による歳出改革の改革努力の結果、毎年の薬価引き下げによる製薬産業全体の毀損により、医薬品の供給不安が生じていることへの財務大臣への認識を問いつつ、毎年引き下げありきの薬価改定に問題があり、供給不足が続いていると訴えました。

●医療用医薬品は公定価格のため、原材料価格やエネルギーコストのみならず、賃上げ原資も含めて、適切な価格転嫁が制度上困難な中、度重なる薬価引き下げが、創薬原資、設備投資原資や賃上げ原資の確保を困難にしていること、ならびに平成28年に４大臣合意で決定した薬価制度の抜本改革に向けた基本方針を漫然と続けていることの問題を指摘しました。

●“価格乖離の大きな品目”の基準（薬価調査に基づく平均乖離率の0.625倍）について、今まで一度も見直し議論がされておらず、状況変化に応じた対応ができていないことは、４大臣合意の基本方針を逸脱していると指摘しました。

●医薬品の流通改善や産業構造の見直しが終わるまでは中間年改定は廃止すべきであり、また価格引き下げありきの薬価制度の抜本的見直しを早急に実施することにより、医薬品産業の健全化を図るよう求めました。